

令和7年度 基本施策評価シート

基本施策	D2	資源を守り大切に社会の実現をめざします	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	だれもが		ごみ減量・リサイクルに対する意識を高め、資源を守り大切に社会の形成に取り組んでいる。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			107ページ
基本施策主管課名	資源循環課	関係課名	環境政策課、環境整備課、ゼロカーボンシティ推進室

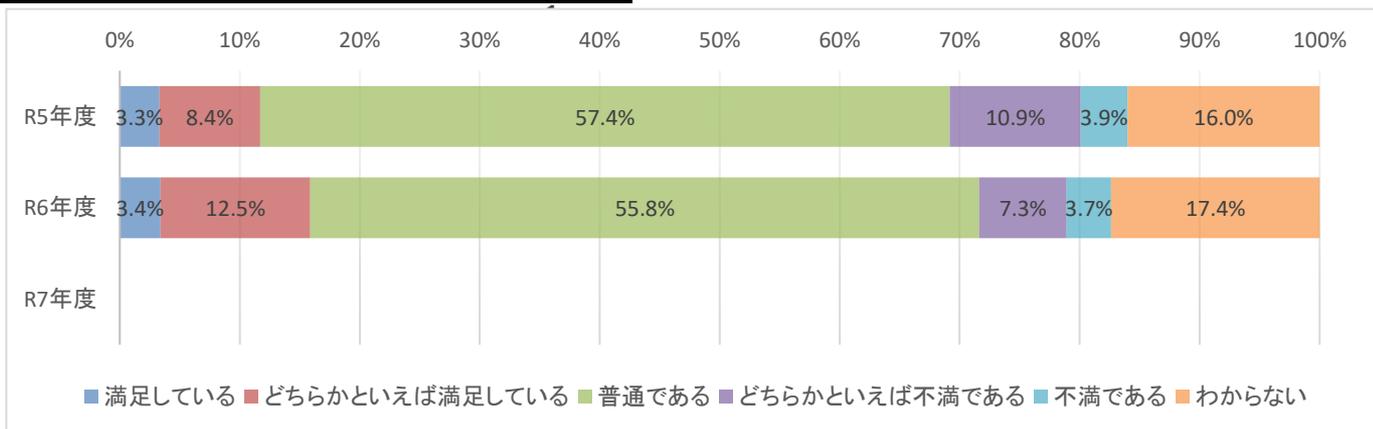
基本施策の総合評価

総括	<ul style="list-style-type: none"> ●基本施策の成果指標である「1人1日あたりのごみ排出量」は914g(速報値)であり、基本施策の目標値を達成しているものの、ごみとして排出されたものの中には、「まだ使えるもの」や「まだ食べられるもの」が含まれていると考えられ、更なる減量化が可能である。 また、ごみ処理施設に持ち込まれる事業系ごみについて、ごみの分別が不十分なものなど不適正な搬入防止のための指導・監視を行っているものの、徹底が困難である。 ●基本施策の成果指標である「リサイクル率」は、市民のリサイクルの意識や実際の取組みが浸透してきていることにより13%程度を維持しているものの、「燃やせるごみ」や「燃やせないごみ」の中には、「リサイクルできるもの」が含まれており、分別が十分に徹底されていない。 以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。
D2-1	<ul style="list-style-type: none"> ●施策主管課である「廃棄物対策課」を「資源循環課」に改称するとともに体制を強化し、資源循環型社会の実現に向けた新たな仕組みづくりに着手する。 ●ゼロカーボンシティ長崎の実現に向けたCO2削減と地域内資源循環の取組を進めるために、令和8年度開始予定のプラスチック使用製品廃棄物の一括回収及び認定再商品化計画に基づく再商品化の実施に向けた準備(再商品化計画の大臣認定取得、分別変更に係る市民等への周知啓発など)を着実に進める。 ●現在においても、燃やせるごみ(家庭系)の中に含まれていると考えられるリサイクル可能な古紙や古着について、分別徹底や古着の拠点回収再開の周知を行うことによる資源化量の拡大を図る。 ●粗大ごみとして排出されたものの中から、状態が良く、まだ使用可能な家具をはじめとしたリユース品を、長崎市「リユース倉庫 きばち」で希望者に引き渡し、4Rの推進及び市民のリユースの意識の向上に加え、ごみの減量化を図る。 ●燃やせるごみ(家庭系)の中に、まだ食べられる食品が含まれていると考えられることから、フードドライブ活動の実施場所や機会を増やすほか、食品ロスに関する出前講座を実施することで、活動の浸透及び拡大を図る等、食品ロス削減の推進に取り組む。
D2-2	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ処理場での展開検査と事業者への立入検査等の指導との連携を強化し、引き続き、不適正なごみの搬入を防止を図る。 ●新東工場の令和8年度の稼働開始に向けて、工事の進捗状況を確認しながら、施工が適切に図られるよう監理を行う。

二次評価(施策評価会議による評価)

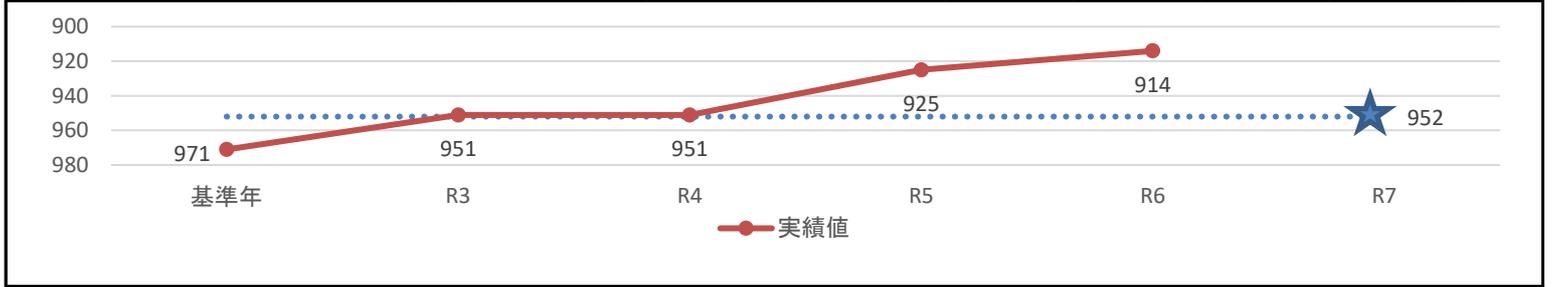
【D2】	●長崎市では4Rに取り組んでいるが、「修理(リペア)」を加えた「5R」という考え方も出てきているので、意識して取り組んでほしい。
【D2-1】	●市民全体として、家庭ごみの減量に向けて取り組まざるを得ないという意識醸成がまだまだ不十分であるため、抜本的な取組みを検討すること。
【D2-2】	●公式LINEにおける分別のチャットボットの利用状況を分析し、今後の取組みに活かすこと。

基本施策に対する市民満足度調査結果

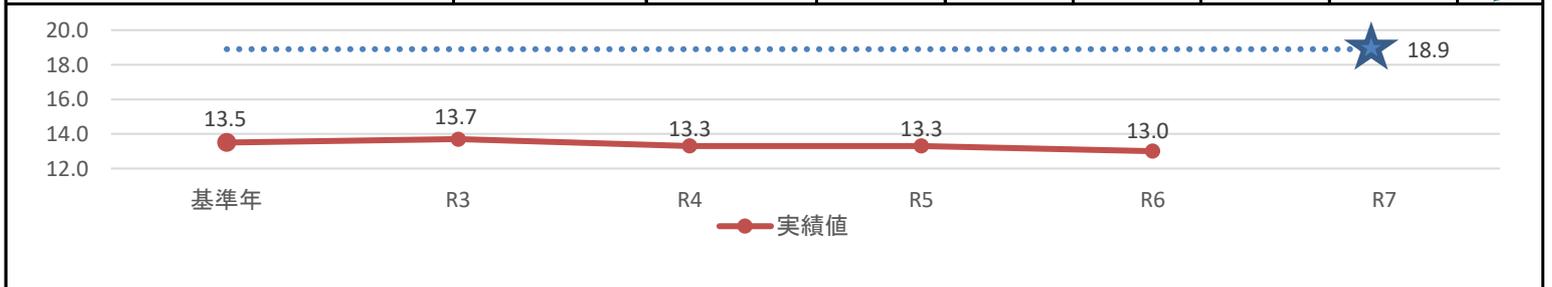


成果指標

指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
1人1日当たりのごみ排出量	971g (R元年度)	952g (R7年度)	951	951	925	914	-	➡



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
リサイクル率	13.5% (R元年度)	18.9% (R7年度)	13.7	13.3	13.3	13.0	-	➡



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別と減量を推進するため、リサイクル推進員を対象とした研修会(15回)、施設見学会(4回)を実施 ・資源物の分別収集を行った結果、資源ごみ5,509t、古紙3,297t、プラスチック製容器包装4,310t等の再資源化を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別と減量を推進するため、リサイクル推進員を対象とした研修会(6回)、施設見学会(4回)を実施 ・資源物の分別収集を行った結果、資源ごみ5,350t、古紙3,195t、プラスチック製容器包装4,047t等の再資源化を実施 ・新東工場建設地の造成工事完了 ・「リユース倉庫きばち」の整備完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別と減量を推進するため、リサイクル推進員を対象とした研修会(12回)、施設見学会(4回)を実施 ・資源物の分別収集を行った結果、資源ごみ5,356t、古紙3,112t、プラスチック製容器包装3,815t等の再資源化を実施 ・粗大ごみからのリユース品の譲渡を1,263件実施 ・市内を19地区に分け、令和7年度以降のごみ収集業務委託に係る入札を完了 ・新東工場の建設工事において、建築工事を進めるとともにプラント工事に着手 	

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	D2-1	ごみ排出量の削減とリサイクルを推進します
2025年度にめざす姿	対象	意 図
	だれもが	ごみ減量とリサイクルに積極的に取り組んでいる。
個別施策主管課名	資源循環課	

成果

① 資源物分別収集の促進

●市民と行政が一体となったごみの分別と減量を推進するため、リサイクル推進員を対象とした研修会を12回、施設見学会を4回開催したことにより、ごみ分別の強化等、知識や意識の向上が図られた(737自治会2,522人)。

●市民と行政が一体となったごみの分別と減量を推進するため、資源物集団回収活動奨励補助金の交付や用具の譲与などにより資源物集団回収活動を支援した結果、延1,908団体が活動を行い、3,852tの資源物(古紙3,792t、古布1t、アルミ缶等59t)を回収することができた。

●市民と行政が一体となったごみの分別と減量を推進するため、資源物の分別収集を行った結果、資源ごみ(缶、びん、ペットボトル、金属製鍋等)5,356t、古紙3,112t、プラスチック製容器包装3,815t等の再資源化を行うことができた。

●市民が身近なりサイクルを実感することができるようにするため、ペットボトル回収量のうち50%を用いて水平リサイクル「ボトルtoボトル」を実施したことにより、500mlペットボトル換算約2,905万本のリサイクル(ボトルからボトルへのリサイクル率81.2%)を実現したことを確認し、再生したペットボトルに水道水を充填した「ながさき水道水」をイベント等で配布したことで、市民・事業者の環境に配慮した活動の促進を図った。

●ゼロカーボンシティ長崎の実現に向けたCO2削減と地域内資源循環を推進するため、再商品化事業者(予定)のN L OOP株式会社と連携し、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」第33条に基づく再商品化計画案の作成を行い、その内容について環境省との協議を進めた。

●小中学校21校において給食用牛乳パックの回収を行い、67校において家庭から排出されるペットボトル等のふたやプルタブの回収を行ったことから、児童・生徒及び保護者のごみ分別・リサイクル意識の醸成が図られた。

② ごみ排出量の削減

●リユースを促進するための拠点として旧西工場煙突跡地に整備したストックヤード「リユース倉庫きばち」において、6月17日から、粗大ごみから選別した比較的状态の良いものをリユース品として掲示板ジモティーに掲載し、譲渡するリユース事業を開始し、1,263件譲渡することができた。

●市民及び企業等による4Rの推進の強化のため、6月、10月に市内全域でのフードドライブで、メットライフ生命と連携し長崎支店での受付を実施するとともに、メットライフ生命を通じて長崎経済同友会へフードドライブ、食品ロスを知りて事業者の活動を促したことにより、令和6年度のフードドライブによる食品回収量は2127.1kgとなった。

●出前講座、生ごみ堆肥化体験会の実施、ホームページ掲載等によりごみの分別、食品ロス削減への啓発を行ったことで市民の環境意識の醸成につながった。
※ごみの1人1日あたりの排出量は914gであり、基本施策の目標値952gを達成している。

問題点とその要因

① 資源物分別収集の促進

●リサイクル率は13.0%(速報値)であり、当初の目標は達成できていない。その要因は、分別が徹底されていないため、「燃やせるごみ」や「燃やせないごみ」の中に古紙や古布、びん等「リサイクルできるもの」が含まれている。

② ごみ排出量の削減

●フードドライブやリユースなどの取組みを進めているが、実践している市民がまだ少ないことから、ごみとして排出されたものの中には、「まだ使えるもの」や「まだ食べられるもの」が含まれている。

●ごみの分別についてのルールが一部、市民に浸透していないことにより、いまだプラスチック製品、革製品及びゴム製品が「燃やせないごみ」のごみ袋で排出される場合がある。

今後の取組方針

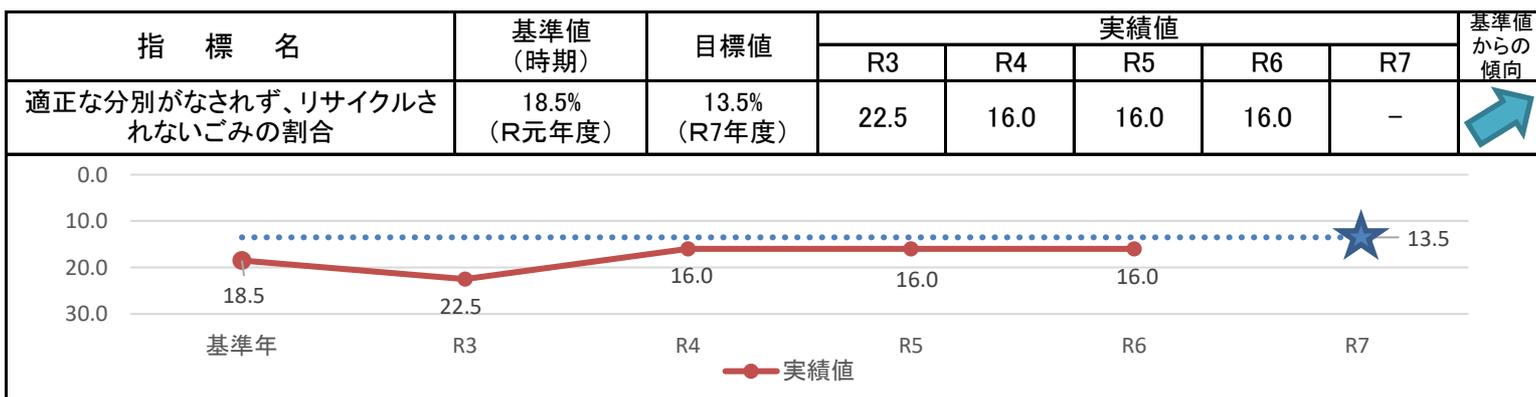
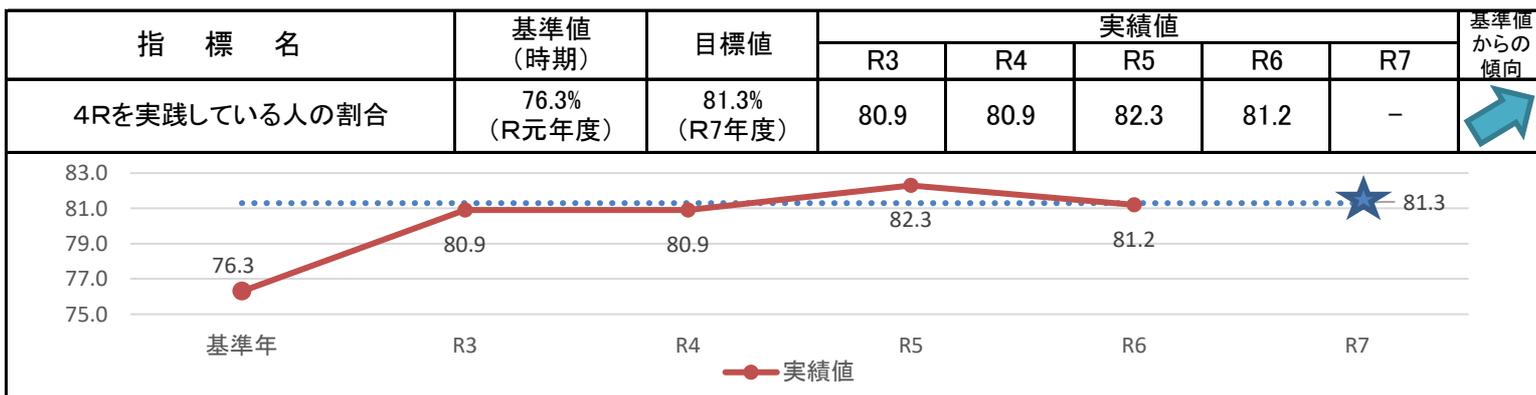
① 資源物分別収集の促進

継続	●今後も市民と行政が一体となったごみの減量と分別を推進するために、リサイクル推進員の配置及び連携を強化し、各地域のごみ排出量削減の指導・啓発を行い、資源物(資源ごみ、古紙、プラスチック製容器包装等)の分別収集を促進する。併せて、ごみの減量とリサイクルに関する啓発・周知を行う。
継続	●使用済みペットボトルを繰り返し再生する「ボトルtoボトル」によりリサイクルしたペットボトルを使用した「ながさき水道水」を、イベント等において配布し手に取ってもらうことで市民一人ひとりのごみ減量・リサイクルの取組みを推進する。
継続	●資源化量を増加させるため、集団回収活動を促進し、引き続き回収団体及び回収業者への補助金の交付や回収団体への資源物回収用具の譲与を行い、リサイクル活動を行う団体や業者を支援する。
継続	●ゼロカーボンシティ長崎の実現に向けたCO2削減と地域内資源循環の取組を進めるために、令和8年度開始予定のプラスチック使用製品廃棄物の一括回収及び認定再商品化計画に基づく再商品化の実施に向けた準備(再商品化計画の大臣認定取得、分別変更に係る市民等への周知啓発等)を着実に進める。
継続	●燃やせるごみ(家庭系)の中に含まれていると考えられるリサイクル可能な古紙や古着等について、分別徹底や古着の拠点回収再開の周知を行うことによる資源化量の拡大を図る。
新規	●リチウムイオン充電電池単体やモバイルバッテリーの地域センター等での拠点回収を開始し、小型家電リサイクル認定事業者に売却、リサイクルを行う。

② ごみ排出量の削減

継続	●粗大ごみとして排出されたものの中から、状態が良く、まだ使用可能な家具をはじめとしたリユース品を、長崎市「リユース倉庫 きばち」で希望者に引き渡し、4Rの推進及び市民のリユースの意識の向上に加え、ごみの減量化を図る。
継続	●自治会未加入者が多い大学や専門学校の学生に対する新入生オリエンテーション等でのごみの分別の説明、学校内でのチラシ配布を引き続き行う。また、不動産業者に対し、アパート等への入居者へのごみ分別チラシの配布協力依頼を引き続き行うとともに、引っ越しごみマナーの周知・徹底を行う。
改善	●プラスチック製品、ゴム製品及び革製品の燃やせるごみへの分別変更について、未だ分別が徹底されていないことから、今後も出前講座、環境イベントや広報誌への掲載のほか、ごみ分別のLINE検索を活用するなど、様々な機会を捉えて市民への周知徹底を図る。
継続	●燃やせるごみ(家庭系)の中に、まだ食べられる食品が含まれていると考えられることから、フードドライブ活動の実施場所や機会を増やすほか、食品ロスに関する出前講座を実施することで、活動の浸透及び拡大を図る等、食品ロス削減の推進に取り組む。

成果指標



施策を推進する主な事業

事業名 担当課	資源ごみ処理費		資源循環課																		
成果指標	リサイクル率(%)		 <p>【売却するアルミ缶】</p>																		
目標値	18.9%																				
実績値(速報値)	13.0%																				
達成率	68.8%																				
成果指標・ 目標値の説明	<p>ごみの減量と適正分別の成果を表すと考えられるため、リサイクル率(一般廃棄物総排出量に対する資源化量の割合)を成果指標とした。 平成30年度の中核市平均値をもとに18.9%にすることを目標とする。</p>																				
1 事業目的	一般廃棄物を適正に処理するとともに、資源化が可能なものはリサイクルすることで資源の有効活用を図り、埋立処分場の延命化を図る。																				
事業概要	資源ごみ(缶、びん、ペットボトル、金属製の鍋・釜・やかん・フライパン)、古紙(新聞・雑誌・段ボール)、プラスチック製容器包装等の選別を行い、資源化する。																				
取組実績	<p>(取組実績)</p> <table border="0"> <tr> <td>資源化量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>缶</td> <td>946t</td> </tr> <tr> <td>びん</td> <td>1,860t</td> </tr> <tr> <td>ペットボトル・キャップ</td> <td>1,762t</td> </tr> <tr> <td>金属</td> <td>86t</td> </tr> <tr> <td>古紙</td> <td>3,112t</td> </tr> <tr> <td>プラ容器</td> <td>3,815t</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>803t</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12,384t</td> </tr> </table>			資源化量		缶	946t	びん	1,860t	ペットボトル・キャップ	1,762t	金属	86t	古紙	3,112t	プラ容器	3,815t	その他	803t	合計	12,384t
	資源化量																				
缶	946t																				
びん	1,860t																				
ペットボトル・キャップ	1,762t																				
金属	86t																				
古紙	3,112t																				
プラ容器	3,815t																				
その他	803t																				
合計	12,384t																				
	決算(見込)額	467,693,048	円																		

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	D2-2	廃棄物の適正処理と処理施設の整備を進めます
2025年度に めざす姿	対象	意 図
	廃棄物が	適正に処理されている。
個別施策主管課名	資源循環課	

成果

① 廃棄物の適正処理

●一個当たりの容積が大きいマットレス等について、三京クリーンランドにおいて、金属資源と燃やせるごみに解体、分別して処理を行ったことにより、埋め立て量が減り、埋立処分場の延命化が図られた。(処理実績: マットレス 4,266個、ソファ 4,792台、折り畳みベッド 692台)

●水銀は、極めて有害であり、他の廃棄物と一緒に処理すると環境汚染を引き起こす可能性があるため、分けて回収する必要があることから、ごみステーションにおいて使用済み乾電池等(121,400kg)及び廃蛍光管(24,124kg)を回収するとともに、地域センター等での拠点回収で水銀体温計(286本)、水銀温度計(5本)、水銀血圧計(42個)を回収したことにより、水銀使用製品の適正処理につながった。

なお、廃蛍光管の排出量はLED化により減少傾向にあるものの、その他の水銀使用製品の排出量には大きな変化は見られない。

●市内各地区の一般廃棄物収集運搬業務について、把握したごみ量の実績をもとにした、曜日ごとの量の平準化や必要な車両台数等を精査などの分析に基づき、令和7年度からのごみ収集業務委託に係る市内全19地区における入札を完了し、効率的で適切な業務の実施体制を構築することができた。

●三京クリーンランド埋立処分場において、搬入事業者を限定して搬入券のオンライン化を試行し、オンライン化する際の搬入券の内容確認方法など課題を整理でき、機器を設置した。

② 処理施設の整備等

●新東工場の令和8年度からの稼働開始に向けて、令和5年度に引き続き建築工事を進めるとともに、令和6年12月にプラント工事に着手した。

●令和6年4月及び11月にし尿等受入施設建設について地元への説明を行った。

問題点とその要因

① 廃棄物の適正処理

●不適正なごみの搬入を放置すると、状況が更に悪化する可能性があることから、ごみ処理施設に持ち込まれる事業系一般廃棄物の展開検査を強化し、分別が不十分なものなど不適正なごみを搬入しないよう指導しているが、徹底することが困難である。一般廃棄物と産業廃棄物の区分について、廃棄物を排出する事業者の関係法令に対する認識が十分でないことや、燃やせるごみと燃やせないごみの混合物で区分がはっきりしないものなどが不適正なごみの搬入の要因となっていると考えられる。

② 処理施設の整備等

●新東工場建設工事において、令和5年度に造成工事で硬い岩盤が存在していることが判明したため、掘削工法の変更を行う必要が生じたこと等により工期が2.5ヶ月延長となった。その後、令和6年6月に工事現場内の法面崩落が生じ、約1ヶ月間工事が中断され、工程に遅れが生じている。

今後の取組方針

① 廃棄物の適正処理

継続 ●長崎市電子申請サービスを利用して、搬入券をオンライン化することについて、令和5年度から開始した試行状況も踏まえつつ、対象事業者を拡大するなどして、導入に向けた検討を進める。

継続 ●ごみ処理場での展開検査と事業者への立入検査等の指導との連携を強化し、引き続き、不適正なごみの搬入を防止を図る。また、業界団体を通じて、事業系廃棄物の分別について周知を図る。

継続 ●三京クリーンランド埋立処分場内のマットレス等解体作業場を活用し、嵩張る粗大ごみを解体・再資源化することで施設の延命化を図る。

新規 ●令和8年度からプラスチック使用製品廃棄物の一括回収を予定しており、プラスチックとリチウムイオン充電電池等を混入して排出されると発火事故につながる懸念があるため、リチウムイオン充電電池単体やモバイルバッテリーも地域センター等で拠点回収を実施する。

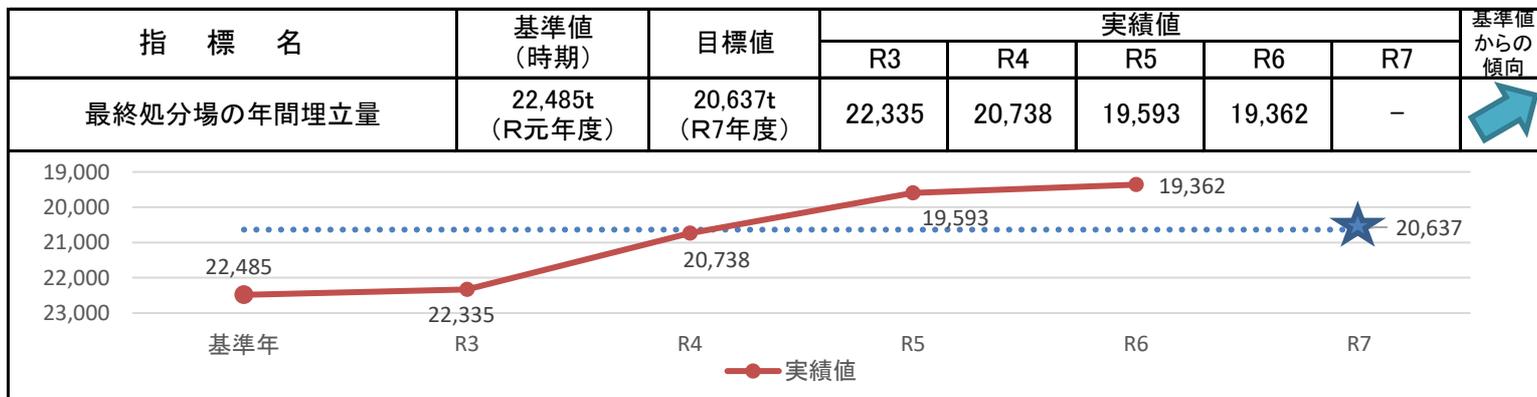
② 処理施設の整備等

継続 ●新東工場の令和8年度の稼働開始に向けて、工事の進捗状況を確認しながら、施工が適切に図られるよう監理を行う。

継続 ●新東工場建設工事において、令和6年度に引き続き、建設事業者と連携し、安全に配慮した車両動線や誘導人員を確保するとともに、施設利用者や地元住民へ周知の徹底を図る。

継続 ●令和10年度稼働開始予定の新たなし尿等受入施設の整備と、稼働開始までの間の既存し尿等処理施設(琴海クリーンセンター)の稼働延長について、関係する地元自治会等と環境保全に向けた協議を行い、円滑な事業実施を図る。

成果指標



施策を推進する主な事業

	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">事業名 担当課</td> <td>【補助】新東工場建設事業費 ごみ焼却施設建設</td> <td style="width: 25%; text-align: right;">環境整備課</td> </tr> <tr> <td>成果指標</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">事業進捗率(事業費ベース)(%)</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">33.4%</td> </tr> <tr> <td>総事業進捗率</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">30.3%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">90.7%</td> </tr> <tr> <td>当該年度執行率</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">86.3%</td> </tr> <tr> <td>成果指標・ 目標値の説明</td> <td colspan="2"> 事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。 </td> </tr> <tr> <td>事業目的</td> <td colspan="2">将来にわたり安全で安定したごみの適正処理を図る。</td> </tr> <tr> <td>事業概要</td> <td colspan="2"> 現東工場の老朽化に伴い、DBO方式による新東工場整備運営事業において、新東工場の建設を行う。 【事業期間】令和4～8年度 【総事業費】23,420,738千円 【事業費累計】7,090,067千円 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取組実績</td> <td colspan="2">・建築工事及びプラント工事ほか</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">決算(見込)額</td> <td style="text-align: right;">4,544,150,459 円</td> </tr> </table>	事業名 担当課	【補助】新東工場建設事業費 ごみ焼却施設建設	環境整備課	成果指標	事業進捗率(事業費ベース)(%)		目標値	33.4%		総事業進捗率	30.3%		達成率	90.7%		当該年度執行率	86.3%		成果指標・ 目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。		事業目的	将来にわたり安全で安定したごみの適正処理を図る。		事業概要	現東工場の老朽化に伴い、DBO方式による新東工場整備運営事業において、新東工場の建設を行う。 【事業期間】令和4～8年度 【総事業費】23,420,738千円 【事業費累計】7,090,067千円		取組実績	・建築工事及びプラント工事ほか		決算(見込)額	4,544,150,459 円	 <p>【現場状況(令和7年3月末時点)】</p>
事業名 担当課	【補助】新東工場建設事業費 ごみ焼却施設建設	環境整備課																																
成果指標	事業進捗率(事業費ベース)(%)																																	
目標値	33.4%																																	
総事業進捗率	30.3%																																	
達成率	90.7%																																	
当該年度執行率	86.3%																																	
成果指標・ 目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。																																	
事業目的	将来にわたり安全で安定したごみの適正処理を図る。																																	
事業概要	現東工場の老朽化に伴い、DBO方式による新東工場整備運営事業において、新東工場の建設を行う。 【事業期間】令和4～8年度 【総事業費】23,420,738千円 【事業費累計】7,090,067千円																																	
取組実績	・建築工事及びプラント工事ほか																																	
	決算(見込)額	4,544,150,459 円																																